

## 全体講評

「手づくり郷土賞」は、地域の個性、魅力、活力を創出している良質な各種の社会資本を広く発掘・紹介することによって、活力ある地域づくりの一助とすることを目的に昭和61年度から実施されてきました。平成13年度からは、社会資本と関わりを持つ地域の良質な活動自体も対象に加え、『地域整備部門』及び『地域活動部門』の2部門により実施されています。

今回の応募物件の全体的な特徴として、「住民のイニシアチブによる企画」、「自然環境の保全・回復を目的とした活動」、「歴史・文化・産業などの資源を活用した活動」が挙げられます。

『地域整備部門』においては、計画段階から住民、地元商店、行政などが連携して、歴史、文化、景観を踏まえて、内外の人々が訪れるための施設を設計している事例が見受けられます。住民と行政が一体となって地域に根ざした社会資本を整備し、それを活用していこうという意識の高まりが強く感じられます。今後、より多くの活動主体が地域の整備に加わり、愛着を持って社会資本を活用することにより、コミュニティの活性化に繋がることを期待します。

『地域活動部門』については、近年の自然環境に対する意識の高まりともあいまって、住民による清掃活動や植栽、或いは森林等の復元などの活動と併せて、体験型の環境学習などを行っている事例が見受けられます。人々が周辺の自然を守り、次世代へと繋げる活動は、今後、より重要になっていくものと考えます。また、歴史的、文化的な施設を保存、復元、活用した活性化のためのイベントなど、住民が積極的に行政へ提案を行い活動している事例も見受けられます。住民が主体となり、次世代に地域の財産を引き継ぐという流れが、個性的な地域づくりに繋がることを期待します。

全体を通して、地域の方々の「自らの地域をいかに良くするか」ということについての熱意が、特徴のある社会資本整備やそれに関わる活動の質の向上に大きく貢献している様子が感じられます。「手づくり郷土賞」を通じてこうした取り組みが広く全国に波及し、個性的で魅力ある地域がより一層増えていくことを期待します。

## 代表事例概要

### < 地域整備部門 >

#### 「蔵のある街づくり」中町地区（岩手県 江刺市）

中心市街地の空洞化が進み新たな街並み整備が叫ばれていた岩手県江刺市の中町地区では、地元住民らが立ち上げた「中町まちづくり委員会」で、建物の意匠、形態や歩道・広場の維持管理などについて検討を重ね、現存する「蔵」の歴史的な建物を保存・活用するとともに、歩道部に自然石を使用するなど和風的感觉を基調としたまちなみづくりを行った。

ここは多数有る伝統的な郷土芸能を披露する場としても利用され、文化の伝承に繋がっていると同時に、商店街の若手有志によるガラス工房やオルゴール館など蔵を活かした積極的な取り組みもみられ、年間7万人程度だった観光客が、現在では約20万人に増えている。

#### 「豊後高田昭和の町並み」（大分県 豊後高田市）

平成13年度より、昭和30年代の賑わいを取り戻すため、年間10店舗を目標に、軒の看板を取り外してブリキの看板を設置するなど当時の建物を再現する「町並みの修景」を行っている。

地域の有志により商店街の歴史を紹介して歩く御案内制度を創るとともに、昭和初期に建てられた農業倉庫を改修した「昭和ロマン蔵」での「駄菓子屋博物館」の開館、昭和30年代を代表する車である「ダイハツミゼット」の展示などで多くの人々を集めている。

この活動は、商店街、商工会議所、行政が一体となって実施しており、地域の魅力を自ら発掘し、地域活性化に繋がったものである。

## < 地域活動部門 >

### 「小樽雪あかりの路」

(小樽雪あかりの路実行委員会 / 北海道 小樽市)

小樽では、閑散期となっている冬期の観光客の増加を図るため、明治・大正時期に建てられた銀行建築や倉庫等の歴史的建造物を数多く有する街並みの景観を有効活用して、平成10年度よりイベント「小樽雪あかりの路」を開催している。

小樽運河では硝子の浮き玉を加工し、中にろうそくを灯した浮き球キャンドルを浮かべ、国鉄手宮線跡地ではスノートンネルを作成し様々なオブジェを設置するなど、幻想的な雪あかりの路を演出している。

この活動は、市、観光協会、ボランティア団体等で実施されており、回を重ねる毎に参加する町内会も増え、地域コミュニティの復活にも一役買っている。

### 「古の道「六十里越街道」で地域づくり」

(歴史の道「六十里越街道」を記録する会 / 山形県西川町、朝日村)

古代から明治30年代まで利用されていた六十里越街道の内、藪に埋もれた区間のルートを踏査し、失われた歴史文化資産である供養塔、茶屋跡の石垣、砲台跡がある幻の街道を平成9年度より復元整備している。

歴史の道「六十里越街道」を記録する会では、復元した街道を活用したトレッキングの企画について地域の旅館を指導するとともに、歴史・民族研究者や関係町村の生涯学習担当の職員を現地に案内するなど、街道の歴史的、文化的資産の重要性の啓発のため、幅広い活動を実施しており、現在では、登山地図の出版物に復元されたルートが記載されるまでに至っている。

### 「やすらぎの水辺づくり」

(愛媛県立大洲農業高等学校 / 愛媛県大洲市)

大洲市肱川五郎河川敷は、かつて人のはいりにくい雑草地帯であったが、平成7年度より県立大洲農業高等学校の学生が除草、整地を行い、春・夏・秋の開花時期に合わせた播種を行っている。

春の花として1.2haに菜の花約20万本、夏の花として0.6haにヒマワリ約4万本、秋の花として1.2haにコスモス約10万本を栽培し、河川敷いっぱい季節の花を咲かせており、今では恒例の行事として定着しつつある「菜の花フェスタ」を地元団体協力のもと開催するなど、やすらぎと憩いの水辺として多くの来場者を迎え入れている。

この活動は、高校生の学習活動の域を越えた地域活性化の取り組みと言える。